

|       |                                                      |
|-------|------------------------------------------------------|
| [R-1] | 災害時の栄養・食生活支援を学修するための管理栄養士養成課程におけるアクティブ・ラーニング教材の活用可能性 |
| 報告者   | ○久保彰子*1、武見ゆかり*1、小澤啓子*2、今井里佳*3、久野一恵*3                 |
| 所 属   | *1 女子栄養大学、*2 女子栄養大学短期大学部、*3 西九州大学                    |

## 1. 背景・目的

管理栄養士には、災害時に被災者の栄養・食生活支援を担う専門的な判断力と対応力が求められる。我々はこれまで、災害時の栄養・食生活支援において判断や対応に迷う事例を題材としたアクティブ・ラーニング教材を開発してきた。教材作成過程の詳細については既報とした（日本災害食学会誌 Vol. 12, p25-34, 2025）。

本ラウンドテーブルでは、当該教材を実際に体験したうえで、その教育的有用性および管理栄養士養成課程における活用可能性について意見交換を行うことを目的とした。

## 2. 教材作成の方法と結果

活用可能性の検討対象とした教材は、被災者の栄養・食生活支援に直接従事した管理栄養士の活動事例を基に作成した、カードゲーム形式のアクティブ・ラーニング教材である。本教材は、判断や対応に迷った事象を基に設問化し、学生が災害時の栄養・食生活支援を具体的にイメージしながら学修できる構成とした。

## 3. ラウンドテーブルの進行

はじめに、教材開発の背景および経緯、本ラウンドテーブルの論点について説明を行った。続いて参加者を2グループに分け、アクティブ・ラーニング教材を実際に体験した。教材体験後は、参加者全員によるディスカッションを行い、教材の特徴、学生への教育効果、授業での活用方法等について意見交換を行った。出席者は11名（教員9名、出版社関係者2名）であり、教員の専門分野は臨床栄養、栄養生理、栄養教育、応用栄養、公衆衛生と多岐にわたっていた。

## 4. 討議内容

### 4-1. 教材は学生の学修をどのように促すか

教材はゲーム形式であることから、学修の導入として学生の関心を引きやすく、災害時の栄養・食生活支援を臨場感をもってイメージできる点が評価された。「情報が混乱する状況の中で、何を優先して考えるべきかに気づくことができる」「正解が一つではない状況で判断する難しさを体験的に理解できる」といった意見が示された。一方で、学生がどこまで状況に気づき、背景要因を掘り下げて考察できるかについては、教材体験のみでは不十分な場合があるとの指摘もあった。

### 4-2. 教材活用において教員に求められる役割

学生の気づきや考察の深まりは、教員による関わり方に大きく依存するとの意見が多く挙げられた。教員には、災害時の栄養・食生活支援に関する知識に加え、行政組織や関係団体との連携、関連法令・通知等に関する理解が求められるとされた。また、振り返りシートを用いて学生の考えを全体で共有し、議論されなかった栄養課題や対応策を補足説明することが、学修の質を高める上で重要であるとの意見が示された。

### 4-3. 他科目・他場面への応用可能性

災害時の栄養・食生活支援では、医療・福祉施設、給食施設、市町村や保健所等の行政、DMAT など、活動の場によって管理栄養士に期待される役割が異なる。そのため、本教材は公衆栄養学、社会・環境と健康、給食経営管理論、応用栄養学、総合的な演習等、複数科目での活用が期待された。一方で、現行教材のケースは行政を軸とした内容に偏っているとの指摘もあった。今後、ケースを拡充することで、災害時の栄養・食生活支援をより俯瞰的に捉えられる教材となる可能性が示された。

## 5. まとめ

本ラウンドテーブルを通して、当該教材は管理栄養士養成課程において、災害時の栄養課題や判断の難しさを体験的に学ぶ教材として有用であることが確認された。一方で、教

材の教育効果を高めるためには、ケースの拡充に加え、教員向けの進行ガイドブックの整備や振り返り支援の工夫が重要であることが示唆された。